

Title	海外日誌(廿三)
Author(s)	山本, 一清
Citation	天界 = The heavens (1925), 5(49): 61-63
Issue Date	1925-01-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/160204
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

海外日誌 (廿三)

山本 一清

七月一日(火)

朝十時、アームストロング會社の車を雇ひ、リニアン通の第七番地に移轉す。之れがケンブリヂで吾々の第四番目の家であるが、こんどは、コンクリート三階建の近代式アパートメントの入口に近い部分で室数は三、ほかに浴室も台所も申し分はない。家主のホランド一家は今朝早くニウ・ハムプシヤの夏家に移つた筈。

午後八時、天文臺へふさ、圖書室でブラク氏に會つた。

夕方は散歩。リニアン通りに火事騒ぎがあつて、ポンプが澤山集まつたりしたが、火元は分らなかつた。

七月二日(水)

新しい家の始めての朝を、早く起き、九時半から天文臺へ行く。天文臺までは約五丁。近いので、今日からは正午に食事のため帰宅することにする。

夕方、安藏氏來訪、夜レデオを爐の上の棚に据え付け、今ニウヨークで開かれてゐるデモクラト黨の大會を聴く。

いよいよ来る九月十日ニウヨーク出帆のフレンチ・ライン線バリールに乗ると決定。

七月三日(木)

レデオの電池を新調したため、成績大へん宜し。

夜、臺所で寫眞の焼き付けをする。

七月四日(金)

今日は獨立祭日で米國隨一のホリデー。自分等は午前中宅に居たが午後はボストンの中央公園へ景氣を見に行つた。偶々後藤田氏に會ひ共に「蛙池」の畔に立つて、小供たちの美しいパゼントを見、それから、運動場で國旗下降式を見た。

夕方、散歩。ナレンテス通りの安藏氏方に川上、西郷、九鬼三氏も居られるのに會つた。

七月五日(土)

朝から、天文臺で、マゼラン大雲中の變光星調査のため、AM寫眞(アレキバの一時板)を集めて見た。しかし、多くは曝露時間が短くて、餘り役立ちそうにもない。

夜、臺所で寫眞の焼き付け。

七月六日(日)

朝十時半から、レデオでWDBR(ボストンのトレモント・パプテスト教會)局から来る禮拜をきく。

午後、ひるね。次いでハーグード廣場まで散歩。

夜、川上、西郷、九鬼、安藏四氏來訪。

七月七日(月)

AM寫眞板は大雲の變光星研究に全く役に立たないことが明らかになつた。——此の日、天文臺は九十三度の暑さ。天文臺の中でも、自分の室が最も暑い場所になつてゐる。

新聞に據るに去る八月二十日以来カリフォルニアのハミルトン山は大きな山火事で、火は最近にスミス谷まで追つて來たといふ。リク天文臺の安否が心配である。

七月八日(火)

暑くて、仕事に手に付かない。午後四時頃、宅に歸る。

七月九日(水)

天文臺では此頃、C館に自動撒水管を取り付けたるため、多くの職人が働いてゐて、槌の音がやかましい。婦人連は皆何所へか退却して了つたらしい。

英子のピアノ練習振りが大ぶんに上達した。

レデオで聴いて見ると、ニウヨークに於ける數週以來のデモクラト黨大會に於いて、今日第百三回目の投票により、JWデボス氏が大統領候補者に擧げられることになつた。

今日午後四時から、自分はシェファソン實驗場でライマン教授の「最

近の物理学」をいふ講演をきく。

七月十日(木)

WS アダムス氏に送るため、天文臺で、太陽研究の改正論文をタイプする。

ホストンは此頃B P O Eの大會で大混雜をしてゐる。

新聞では、バリのオリンピック競技に始めて日本人の名が見えてゐた

七月十一日(金)

夕方、天文臺のミス・ウヅを招いて晚餐を共にし、後散歩。空には月が明るい。ミス・ウヅから「月中の美人」を指示して貰つた。なるほど言はれて見れば左様見えないことも無いが、吾々には「兎」も仲々捨て難い夜、TG フロシシが大佐の書いた「ジュットランド沖の海戦記」をよむ。之れで見ると、總ての點に於いて、英國海軍よりも獨逸海軍の方が優れた手並である。窓外を、「汽笛一聲……」の鐵道唱歌の曲を口笛で吹きながら通つてゐる人がある。

七月十二日(土)

新しい太陽論文出來上る。題は Some Phenomenal relations between the Solar constant and the heliograph activity をし、直ちにアダムス氏に送る。

夕方、安藏、川上、九鬼、西郷四氏に、宅で晚餐を饗し、それから十一時頃まで話す。

七月十三日(日)

十一時からホストンW N A C局を通じて、聖ポール堂の禮拜をきく夜、H W メービー氏の「現在及び將來の日本」をよむ。日本の歴史的文化が現代及び將來の日本の背景であるといふ點を高調してゐる點に於いて、數ヶ月以前から自分が考へてゐた所と全く一致した見解であるため、大に同感であつた。今まで讀んだ内で、之れ程の見方をしてゐる人は、米國は勿論日本にも有ると思はれない。

七月十四日(月)

終日、天文臺。

夜、高山、大橋兩氏來訪。

七月十五日(火)

午後五時から英子はブラツク方へ手助ひに行き、夕方歸宅後、二人で散歩しつゝ、北ケンブリヂへ行き、ハーヴァード劇場で活動畫を見る

七月十六日(水)

午後八時過ぎから、天文臺では大學の夏期學生のために講演會が催され、ミス・カノンが「天文學上に於ける最近の諸發見」と題して、實は主にヘル・アレキバの土産ばなしなどをした。集まつた者も、必ずしも學生とは限らない。例によつて、おなじみの善男善女も多かつた。英子も出席

七月十七日(木)

今日は天文臺で讀書す。

夕方、散歩。元の宿のハールバート方や田中氏方を訪れた。田中氏方では始めて宮崎氏に會つた。

七月十八日(金)

天文臺の圖書係ミス・ウヅがFG カーペンターの「聖地シリア」といふ新刊を貸して呉れたので、今夜から少しづつ讀むこととする

今秋の聖地旅行の好い準備だと思ひつゝ。

七月十九日(土)

終日、天文臺。

七月二十日(日)

英子少々疲労の氣味なので、在宅。生憎B電池が使ひ盡されて、今日のレデオ禮拜は駄目。

夕方、ハーヴァード廣場まで散歩。

七月二十一日(月)

朝、ブラツク夫人が訪問鈴をならされたが、何分にも餘り早かつたので、遂に會はなかつた。

天文臺では、少し方面を變へて、觀測室屈折問題を調べる。近頃の測地學上の實際問題としては、此の方面と、恒星赤緯(殊に固有運動)問題が最もやかましい。

昨日の不成績にこりて、今日午後はボストンへ電池を買ひに行く。
七月二十二日(火)

午後五時から英子はブラツク方へ。

夕方、高山氏來訪。神經痛だと言つて弱つてゐられる。それで、折角英子の作つた食事を認めないで歸られた。

七月二十三日(水)

午後四時から、例週の通り、シエファソン實驗場へ科外講演をき、に行く。今日はケンブル助教授御得意の量子論であつたが、此の人の言葉は純アメリカ式のなまりが多くて、わかりにくい。

夕方、散歩のついでに大橋おさ高山君と訪問。高山君には聖書の説明をしたりした。

七月二十四日(木)

此頃は暑さがつゞいて、毎日寒暖計は九十三四度に上る。天文臺でふさ、ニウカム著「追想録」をよみ出したら、面白くてさう／＼午後の半日を費してしまつた。

七月二十五日(金)

暑いと言つても、日本に比べると、空氣の湿度が當地は少ないから全くしのげないことは無いのだが、それでも日中に九十四度ぐらゐに上つて可なり堪え難い。此頃の自分は朝九時過ぎに天文臺へ行き、十二時半頃歸宅、午餐後一寸ひるねして、午後四時から再び天文臺へ行くこと決めた。

今日午後、天文臺の書棚でアンドルー・タルコットの傳を見付けて讀んだ。緯度觀測に用ゐられる例のタルコット法は彼れが米國のミシガン、オハヨ兩州境界を天測してゐる頃一八三四年に發見したものだ。

七月二十六日(土)

夕食には安藏、川上、西郷三氏を招き、其の後十一時半まで話す。

西郷氏の飛行機に乗つた話しは全く面白かつた。

七月二十七日(日)

朝十時、加藤氏がミス小場の葬式の通知狀を持參された。それで、

先づ共に朝食を食べ、午後二時から、ボストン市トレモント通り葬式場へ行く。ここに日本人と米人を合せて三十人ばかりが集まり、心ばかりの式を営む。死んだ人の兩親は加州に居られるのであるが、勿論此の式の間には合はない。皆短かい間の友達仲間のみによつて葬式が行はれたのは誠に憐れであつた。

七月二十八日(月)

夕方、ミス・カノンとミセス・マーシャルとが連れ立つて、宅へ訪れて來られた。繪はがきを見せたり寫眞を見せたり、して一時間餘りの時を費す。ミス・カノンは樂家であり。ミセス・マーシャルは兎角思案勝ちの氣質なのだから、二人共に興味を惹くやうな話は誠にむづかしい。

七月二十九日(火)

天文台では事務室のミス・ジョンソンが新ドレーバー星表の最終卷を配布してまはつてゐる。之れで、いよいよ前後十四年を費したミス・カノンの大事業も完成したわけだ。

夜、八時より、天文臺では天文クラブの集會があり、キング助教が「土星と木星」について講演し、其の後、十五時望遠鏡で來會者一同は木星を見た。

會が果てて、自分等二人はA B マグリリン氏夫妻に誘はれ、自働車で市街をドライブし、遂にボストンまでも行つた。歸途、ケンブリヂのセンターあたりになり大きな火事を車上から見る。

七月三十日(水)

今までの内で今日が最も暑い。午前中に九十五度に上つて了つた。夜、F G カーバンター著「聖地とシリブ」讀了。

七月三十一日(木)

午後三時から、自分はB館の暗室で幻燈畫を作る。之れは來週ダートマス大學に於ける天文學會に於いて讀む論文のために使ふものである。五時から本文をタイアする。題はSome notes on solar research。來月のトロントに於ける英國理學大會に出席することを思ひ止まることとする。